

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同研究課題

「チュルク諸語における情報構造と知識管理—音韻・形態統語・意味のインターフェース—」
2020 年度第 2 回・通算第 2 回研究会 報告書

2020 年度第 2 回研究会（通算第 2 回目）

日時：2020 年 6 月 14 日（日）14:00-17:00

場所：Zoom によるオンライン開催

主催：基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」

報告者：児倉徳和（AA 研）・佐藤久美子（国立国語研究所・AA 研共同研究員）

1. 佐藤久美子（AA 研共同研究員，国立国語研究所），児倉徳和（AA 研所員）

趣旨説明

2. 全員

研究計画に関する討論

今回の研究会は、昨年度（2019 年度）まで遂行された共同研究課題「チュルク諸語における膠着性の諸相 —音韻・形態統語・意味の統合的研究—」（研究代表者 佐藤久美子）の 2019 年度第 2 回研究会が新型コロナウイルス感染拡大により中止となったことを受け、本課題の第 1 回研究会として開催されたため、本課題としての第 1 回（スタートアップ）の研究集会として開催された。研究会では、企画者である主査と副査により、研究課題の趣旨と研究の遂行計画の説明が行われ、次いで主に研究計画についての討論が行われた。以下にその概要を示す。

1. 佐藤久美子（AA 研共同研究員，国立国語研究所），児倉徳和（AA 研所員）

趣旨説明

本研究課題の趣旨はチュルク諸語において、従来情報構造との関わりから分析されてきた現象について、新たに知識管理という概念を導入することにより、個別言語の記述を深め、類型化を行うというものである。文焦点の標示に関わる言語現象と「疑問文」を特徴付ける言語形式に着目し、音韻（プロミネンスやイントネーション）と形態統語（語順や分節的形式）の機能と意味を考察することで、音韻・形態統語・意味の相互の関わり（インターフェイス）という理論的問題を探求することを目標としている。

本研究課題では、設定した問題の探求にあたり、さらに具体化した以下の 4 点のサブテーマを設定している。

①文のピッチパターン：平叙文と疑問文のイントネーション、焦点の標示に関わるピッチパターン

②特定の統語的位置の機能的特徴（焦点との関係）：「述語動詞の直前」という統語的位置の機能的

特徴、特に焦点との関係

③非典型的なものを含めた疑問文の音韻・形態統語と意味の特徴：「質問」に対する「確認」、「クイズ」、「思い惑い」の機能をもつ疑問文、修辞疑問文の特徴

④述語要素（動詞の形態・文末詞）の形態統語的・意味的特徴、およびその相互の関わり

これらの具体的なトピックに関する個々の言語の記述と、個別現象に根差した類型化により標記の理論的問題に取り組むのが本研究課題の趣旨である。

2. 全員

研究計画に関する討論

主査・副査による研究計画の趣旨説明に引き続き、研究課題の全構成員により研究の遂行計画についての討論が行われた。主な意見としては、チュルク諸語の研究において音韻・形態統語・意味の相互の関わり（インターフェイス）という理論的問題は既に注目され、取り組まれているトピックであるため、今後の研究の方向性を綿密に考えるべきであること、上記の4つのサブテーマのうち、疑問文に関するものが比較的取り組みやすく、また新規性が見込まれるため、まず③と①のサブトピックから取り組むのがよいのではないかとといった提案があった。

研究会には17名（うち代表者・所員・共同研究員計17名）の参加があり、盛況のうちに行われた。

以 上

（文責・児倉徳和）